

頭痛薬で頭痛が悪くなる？！

薬物乱用頭痛のこと

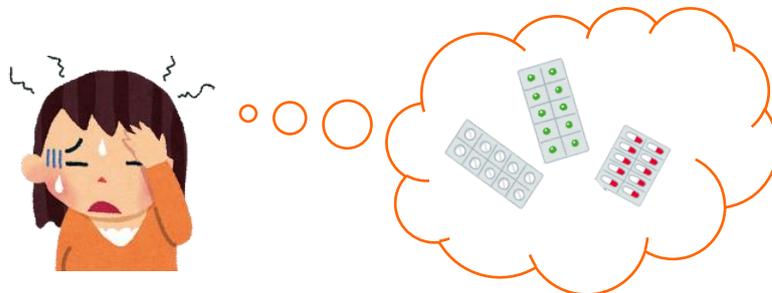
頭痛でお悩みの方は多いと思います。頭痛の中には突然発症して重篤な状態に至りうる、くも膜下出血や髄膜脳炎などによる頭痛がある一方で、昔から長く患っていて繰り返されるというような頭痛もあります。

後者を患っている方の中には、多忙で時間がないため市販の頭痛薬(痛み止め)などで済ましてしまうという方も多いのではないかと推察いたします。そのようなお薬が悪いということではありませんが、薬を服用し続け過ぎて、かえって頭痛を悪くすることもあるということあまり知られていないのではないかと思います。このような頭痛を薬物乱用頭痛といいます。

この頭痛は、背景に片頭痛や緊張型頭痛といった頭痛をお持ちの方が痛み止めを使い続けることにより、頭痛の頻度や痛みの続く時間が増加して慢性的に頭痛を呈するようになった状態と定義されます。発症年齢は大人ばかりでなく、思春期や小児期にも認められます。頭痛で痛み止めを飲み過ぎるという自覚のある方は要注意です。

その症状は片頭痛や緊張型頭痛といったもともとあった頭痛の症状が、ほぼ毎日、朝起きた時から続くといったものです。わずかな身体的な活動や精神的な活動により症状は悪化するため、日常生活や社会活動は大きな制限を受けることとなります。

大変厄介な薬物乱用頭痛ですが、その発症の詳しいメカニズムについては諸説あり見解の一致を見ていません。大まかに言ってしまうと、頭痛に対して痛み止めを連用することによる持続的な脳への刺激により、頭痛に対して脳が過敏になってしまった状態といったところでしょうか。



治療は原因薬剤の中止がまず必要です。もちろん、中止後にも頭痛は現れてきます。そこで原因になったお薬以外の薬物を用いて治療を進めることとなります。痛み止め以外に頭痛の予防薬を用いたりすることもあります。

予防薬には、時にうつ病やけいれん止めのお薬など、一見頭痛とは関係ないようなお薬を使うこともあります。



【神経内科診療部長 大塚 真】

